平成25年度　鶴岡市郷土資料館運営委員会　会議録

○　日　　時　　　平成25年9月18日　　午前10時から

○　会　　場　　　鶴岡市立図書館本館会議室

○　出席委員

　　阿部博行委員、犬塚幹士委員、後藤義治委員、佐々木勝夫委員

　　前田光彦委員、三浦　健委員、渡部　幸委員

* 欠席委員

斎藤和久委員

* 市側出席職員

郷土資料館長　板垣　茂、同図書専門員　今野　章、同主任　本間　緑

社会教育課長　加藤　保

* 公開・非公開の別　公開
* 傍聴者の人数　０人

　１．　　開　　会

　２．　　委嘱状交付

　３．　　あいさつ

　４．　　郷土資料館運営委員並びに事務局紹介

　５．　　正副委員長の選出

　　　　　　事務局案　：　委員長　　前田　光彦　氏

　　　　　　　　　　　　副委員長　　阿部　博行　氏

　　　　　　自薦他薦なく、事務局案で可決

　６．　　委員長・副委員長あいさつ

　７．　　報告・協議

　　（１）平成24年度郷土資料館の運営について

　　　　　事業内容の報告　（事務局）

**委　員**　地元以外の方が来館しないで資料複写の請求はあるか。ある場合は

料金を請求しているか。

**事務局**　大量の依頼は、一度ご来館いただき、具体的な資料名やページ数など

を指定していただいている。それを後日郵送することはある。電話でも、具体

的に指定がはっきりしているものは受け入れているが、依頼内容が漠然とした

ものは断っている。コピーを送付する場合は、基本的には料金が届いてから送

付している。

**委員長**　郷土資料館は公的な施設で、資料は公的な資料でもあるので、できれば顔の見えない人には資料を出して欲しくない。

**委　員**　古文書整理ボランティア事業の活動状況について教えてほしい。

**事務局**　現在、６人の方から参加いただいている。古文書だけに限らず、古写

真の整理もお願いしている状況だ。月２回のペースだが、アドバイザーの指導

のもと、一つの文書群に時間をかけて丁寧に整理してもらうようお願いしてい

る。

**館　長**　資料館でお願いしたい資料整理の方針を参加している方々に共有し

てもらえるよう、ワークショップなども行っている。参加する方の意欲をもっ

て取り組めるよう環境を整理していきたい。

**委　員**　県立図書館で集落史を照会したところ、職員に理解されず県史や市史

を案内された。鶴岡市立郷土資料館ではそのようなことがなく、助かっている。

問い合わせ内容を理解し、対応できる職員の配置が必須と思う。合併後、新市

になり扱う資料も新しく増えていると思われるので、専門のスタッフを増やす

べきではないか。

**委員長**　運営委員会としても、１０年位前から増員を希望している。なかなか

容易ではない。

**委　員**　県立図書館には、集落史そのものの数が少なく、資料収集が進んでい

ない。市側でも集落から集落史の寄贈を受ける際に県立図書館などへも寄贈す

るよう働きかけをしてみてはどうか。

**委員長**　集落史を制作する当事者の方々は、他の集落などから集落史をいただ

いた際に、お返しとして自分たちの集落史を寄贈することはあっても、国会図

書館、県立図書館への納本の意識はまだ希薄だと思われる。集落史も最低でも

国会図書館、県立図書館、所属自治体（郷土資料館）には納本してもらいたい。

**委　員**　市内在住の図書収集家の方が亡くなったが、書庫として使っていたプ

レハブがいつの間にかなくなっていた。貴重な資料もあったはずなので、庁舎

などの現在使用していない部屋などに一時保存し、散逸を防ぐことはできない

ものか。区長などに呼び掛けるなど、資料を収集確保するために声をかけあう

などの体制づくりも必要なのではないか。

**委　員**　受け入れの態勢を整えないと貴重な資料が散逸してしまうので、資料

館としても配慮してほしい。

（２）平成25年度郷土資料館運営方針及び上半期の事業について

　　　デジタル化について説明　（館長）

　　　上半期事業について説明　（事務局）

**委員長**　デジタル化は、今後とも進めるか？

**館　長**予算があまりないが、優先順位を決めて進めていきたい。

**事務局**　まず考えているのが、石原莞爾の直筆資料類。手帳などは小さいので、

まぎれて紛失しても困る。資料そのものは保存し、閲覧は画像で見てもらう形

を取りたい。それから、新聞の利用頻度も高いので、「荘内日報」のデジタル

化は今後とも継続したい。当面はこの２つを考えている。

**委　員**　図書館、資料館と一緒にした建物の新築の予定は。

**館　長**昨年以来、図書館の老朽化に関連する質問や意見が議会でも出されて

いる。図書館・郷土資料館は築後２８年経過した。通常このような施設は３５

年～４０年が建て替えの目途と言われている。図書館も将来構想を立てる必要

があり、その中で郷土資料館の位置付けも考えなければならない。平成２７年

度は図書館創立１００周年にあたるため、それまでには構想を明確にしたい。

ただ、今は文化会館建設の陰にかくれて、なかなか目立たないのが悩みである。

郷土資料館の方も、４０年経過しなくても、市民が利用しやすく、さまざまな

収蔵に適した施設整備が必要かと思われる。市民の方々からも、是非気運を盛

り上げてほしい。

**委員長**　郷土資料館の運営委員という立場で市長に会うことはできるか。

**社会教育課長**　秘書係に聞いてみて、なるべく会えるように調整したい。

**委員長**　前市長も何度も顔を見せていたし、これまで歴代市長も郷土資料館に

は関心を持ってくれた。是非、現市長にも関心を寄せてもらいたい。

**委　員**　資料の受け入れは、まずは燻蒸してから受け入れるか。

**事務局**　すぐに保管庫に入れるということはしていない。自分の施設で燻蒸が

できないので、藤沢周平記念館、アートフォーラム、致道博物館等で燻蒸があ

るときに、一緒にお願いしている状態である。

**委員長**　最近、郷土講座を開催してないようだが。

**事務局**　ここ半年くらいで、大きい講演会が３回あったので、今後足元を見た

講座もいいかと思う。あと半年あるので、考えてみたい。

**委　員**　資料の購入金額は、はじめから予算化されているのか。

**事務局**　独立しているものではなく、図書館の図書購入費の中に含まれている

もの。どうしても資料館にあったほうがよい資料については、館内で相談し

ている。

**委　員**　庄内地方の俵雪研究会という会を、自分も含めた山添高等学校教員6

人で結成したが、会員の高齢化や死亡などにより、去年解散しました。これま

で収集作成した資料が段ボール２箱程あり、これらを資料館に寄贈するので、

保管をお願いします。

（３）その他

　８．　　閉　会